

# ◎ 海浜 → 新開地 (農地・塩田)



文政 2 年 (1819) 頃  
芸藩通志より



天保 9 年 (1858) 頃  
多田家文書より

- 文政 4 年 (1821) 築調 (3 ha)
- 同 1 1 年 (1828) 台風で 1/3 浸水
- 同 1 3 年 (1830) 1 ha 余を塩田に

もともと農地拡大のための築調であったが、半分程度しか農業に適さず、台風による海水の浸入

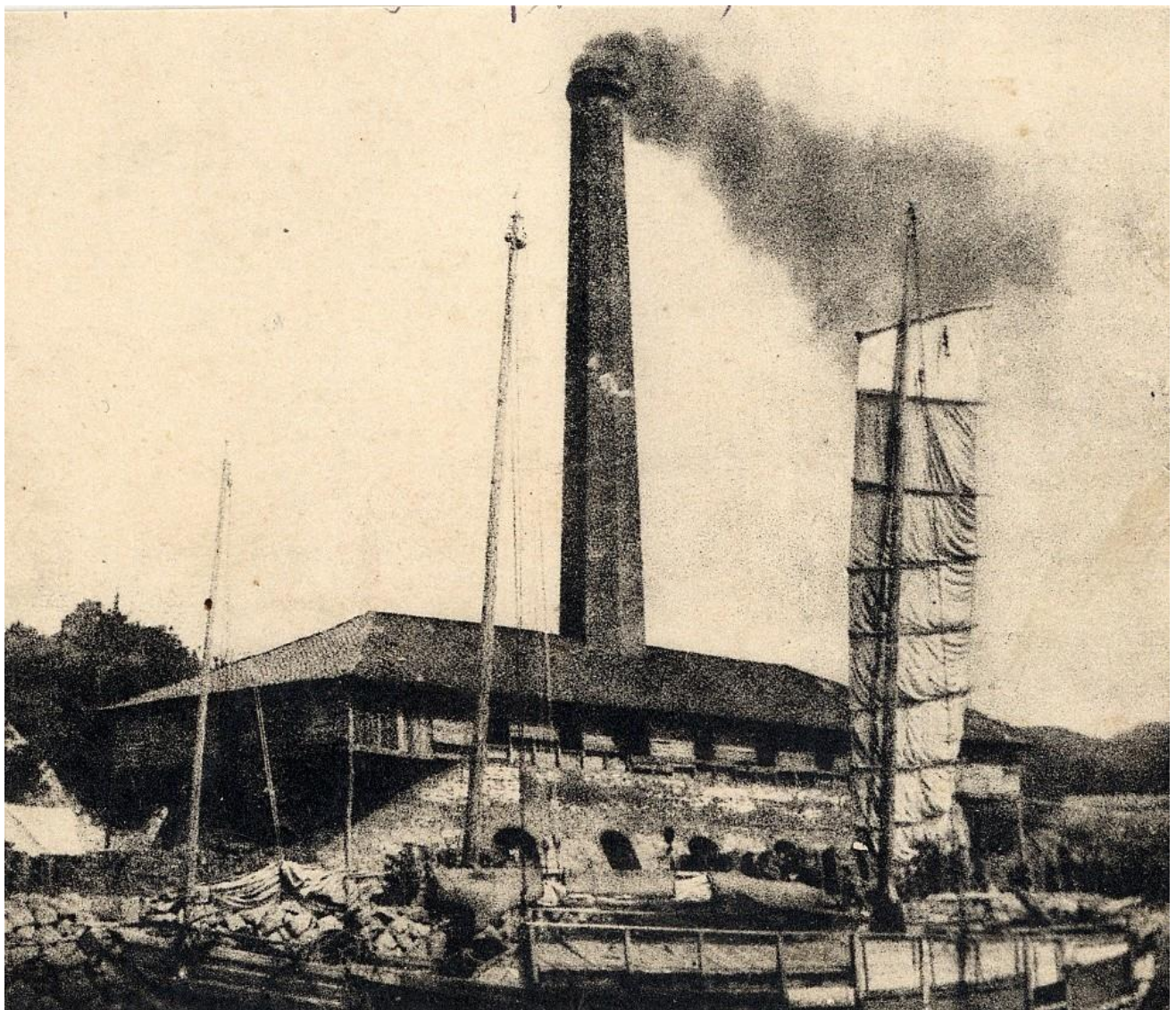
もあり、1 ha 余りを塩浜に改築。

明治38年(1905)の塩専売制導入に伴い、明治43・44年(1910・1911)の第一次塩業整備で多くの製塩地が整理された。宮沖新開の塩田もこれに含まれると考えられる。

### ◎ 塩田跡地 → 煉瓦工場

明治19年(1886)に呉鎮守府設置が決まって以降、江田島の海軍兵学校生徒館、呉鎮守府庁舎、鉄道施設、溶鋳炉の建設など煉瓦の需要が増す中、本格的な製造の機運が高まっていた。

呉出身の和田氏は、原土の確保  
や製品の輸送に好都合なこの塩  
田跡地に着目。明治39年(1906)  
輪環窯の築造を始め、明治44年  
から操業を開始(後の中国煉瓦)。



以後、曲折を経ながら昭和30

年代から40年代前半に最盛期を迎えた。40年代半ばからコンクリートブロックの普及で需要が急減して工場閉鎖が続出。

中国煉瓦工場は昭和45年（1970）輪環窯からトンネル焼成窯への切替えによる生産性向上で乗り切りを図った。しかし燃料が重油であったため、亜硫酸ガスによる公害問題の発生なども加わり、昭和58年（1983）廃業した。

なお、トンネル焼成窯の建屋は「久保卓蔵商店」が引継ぎ、作業場として現在も使用されている。

# ◎ 煉瓦工場跡地 → 住宅団地

あきつ

町の人口		前月との差
総人口	13,785	-10
男	6,625	-2
女	7,160	-8
世帯数	4,065	-2
出生	10	転入 26
死亡	16	転出 30

編集発行 / 広島県豊田郡安芸津町広報委員会 (昭和62. 1. 1発行)

11月30日現在



発展が期待される東部

撮影 沖本 博氏(三津)

完成間近の「宮の浦ハイツ」(赤○印)  
隣接する大きな建物は元トンネル焼成窯

煉瓦工場跡地は一部を除いて宅  
地開発され、「宮の浦ハイツ」と

して昭和61年（1986）から分譲された。子育て世代の入居が多く、50名近い児童が木谷小学校に通っていたこともあった。